

名春



こ袂冬唐奥國子傍さういへ  
 中取一山居ける僧よりいへ我  
 清花持經の力なり我も月夜如昔  
 は市路を讀まるとん殊更いふ冬  
 娘もなりハ月夜ふすく悔子  
 あゝ爰に不思議なる事の人  
 ば山中ふふな〜て又世々人も



歌くふふ歌く後院の折花  
菴室のあつこよ人乃をとなひ  
まさしくいと春も来さるる  
づかなる春も心を静るやと  
おしひ依 すぎみ夕陽より  
福山渡の信にききく  
為乃あつ事ひらみものすく

上

三  
下  
次

夕乃をもほしく覺く月に  
成行山陰に宇宿とあふ  
大には後院を讀誦する  
石蕨よわちうまは乃に  
あつこよをのやふ花  
風被室を菊ききく  
疎屋を字らふて後なる



娘のよすくく 破り物次き  
山は母位や旅り 霧のうわ  
り 来う 哀なる 哀那あも  
山は乃ともく 岩木なりを  
見ぬと 深き 法乃 兼心く  
づめいも づりく づりく 小電  
唐衣の 録も 成ふの 大台 冬も

上

かきく なる 枝も 露 涙は 枝も  
く 枝も 月ハ ぬく ぬく ぬく  
たのこの 霧すく 霧あま  
あく 霧 霧 霧 霧 霧 霧  
あう けく けり けり けり けり  
あまに ぬく なる なる なる なる  
人より ぬく なる なる なる なる

早詩

早詩



此おうわーと世ものなる。

さものあひまゝに法をえ花を

さゝきれをな——結縁哉がけ

りるなわとくもいゝをみえ

下ゝはもはなは城、り正を

りゝるまはる結縁くその菴乃

うもをば遊樂下なるまのわ衆

—あゝ結縁よりをせ新人とよ

笑ゝ清乃結縁はほみうへなる

清なるまはるを那うなるま

那うさあ女人の市方にいゝ

清なるまはるを那うをけはひハ

ま事なるまはるを那う人なる

我も又位家ハ愛うさう可い



早

村あり一跡をくすむしうまふぬ

早

他生乃跡よりあ一跡のた乃

いあわはるうもあおあ

月もうわの春露のあづし軒も

りきほもあふる乃越ハ危奇の

あふ小破まだあーあ山行乃

ぬりあにいつ万一雪月の影も

寸さうーや旅のいひー蘭省乃

花の時跡帳乃もとー冬彦山の

雨能あを菴能うもろ思りあ

銀に清あろ旅さーの源もとあ

は既後補の程うちへ片へん

意ろ旅や此由既あや申さ

我ふあもさ旅女人那情あ木乃



たふ人さふもたふもーうーう

ふく <sup>馬</sup> 実く内中物り殿

唯一念随喜乃信心なり我々一切

那情を本乃さくひ下るも何處

物り <sup>馬</sup> 人々 <sup>馬</sup> ぬは殊更なるや

さくく <sup>馬</sup> 本成佛のいりも我

猶も志し <sup>馬</sup> 新く <sup>馬</sup> 樂尊 <sup>馬</sup> 品

歌う <sup>馬</sup> 本國 <sup>馬</sup> 本 <sup>馬</sup> 情 <sup>馬</sup> 那情 <sup>馬</sup> も皆是

読法 <sup>馬</sup> 実 <sup>馬</sup> お <sup>馬</sup> の <sup>馬</sup> <sup>馬</sup> 炭 <sup>馬</sup> 乃 <sup>馬</sup> 炭 <sup>馬</sup> や <sup>馬</sup> <sup>馬</sup> 谷 <sup>馬</sup> 乃

水 <sup>馬</sup> 膏 <sup>馬</sup> 佛 <sup>馬</sup> り <sup>馬</sup> 我 <sup>馬</sup> が <sup>馬</sup> 良 <sup>馬</sup> や <sup>馬</sup> 奇 <sup>馬</sup> 井 <sup>馬</sup> の

う <sup>馬</sup> こ <sup>馬</sup> の <sup>馬</sup> 心 <sup>馬</sup> も <sup>馬</sup> い <sup>馬</sup> め <sup>馬</sup> る <sup>馬</sup> お <sup>馬</sup> わ <sup>馬</sup> り <sup>馬</sup> 一

終 <sup>馬</sup> な <sup>馬</sup> り <sup>馬</sup> む <sup>馬</sup> ぎ <sup>馬</sup> て <sup>馬</sup> 向 <sup>馬</sup> つ <sup>馬</sup> 月 <sup>馬</sup> 表 <sup>馬</sup> 本 <sup>馬</sup> 一

ども <sup>馬</sup> よ <sup>馬</sup> お <sup>馬</sup> り <sup>馬</sup> 我 <sup>馬</sup> む <sup>馬</sup> 深 <sup>馬</sup> なる <sup>馬</sup> 妙 <sup>馬</sup> 心 <sup>馬</sup> を

志 <sup>馬</sup> 亦 <sup>馬</sup> も <sup>馬</sup> 法 <sup>馬</sup> の <sup>馬</sup> 人 <sup>馬</sup> 乃 <sup>馬</sup> 愛 <sup>馬</sup> の <sup>馬</sup> あり <sup>馬</sup> あり



心ちう思ひ我が家な〜火電線  
ソクはさなもや〜新板ハ孤  
某ハ〜もナ升也ちあるも大  
其あ〜乃さ各のな本も成佛の  
國ハ其成佛乃國出なるあり  
か〜きや〜も過ある女人  
乃處に〜るは乃ち〜る

上  
地

ち〜衆子も〜るな心り  
中〜小何物ハ〜るのすお衆  
閣語をりあ〜るあひ衆  
法をまぶ男と人い〜思ひ  
其あひあ〜法よあひ受衆  
方の人衆を〜笑〜ありとや  
おがす〜世  
所〜やぬるを

上  
地

上  
地

ト

上  
地



乃ださやうも成て数月の影ハ  
さなるゝ在の面能零乃うも衣  
りせ城乃ソ所ハも成すまゝの  
まあもをみえはいつりな〜せと  
思くも種のおれ行き常こなるを  
ふろわ〜  
乃はををの偽り執忍い〜んせ

早詞

叔母ゆゑおまろ

ゆゑハ物もなむ危蕨の女児

上書

あうん就くろ〜う〜あな  
大く〜我法のなむろ〜  
思へばい〜も〜もす〜月も  
ぬなる流のま〜風衣り〜城や  
つ〜あ〜せ〜  
意物い〜の  
庭のおもや傾〜  
る〜い〜や

後字ト



下  
 ぬが法のの教ふ代へさるる神あり  
 下  
 優曇華の花待えしは花鳥葉の  
 下  
 ば清涼面成ゆくりなるは遊樂  
 下  
 めくをうくは方乃人れに染  
 下  
 は鏡花月よりわきてはわ  
 下  
 まぬも空り厭もなき  
 下  
 露のやわゆるは花乃もさる山

信のみと 寝て待つ花とも  
 かなまはる月あつてもおれ  
 寸草の城又もいふは親女の  
 かほりとながわきもあまぬ力ハ  
 づつあふ人う いやひとを  
 ンたーやはハおみ非情の精  
 ばせむの母とありつれうわ



けもや花乃女うも冬なる春  
 子にうる女族の男を成るを  
 ことたまふ世 可張不寄ハ  
 花おやもう花よりうも大めそ  
 あうり花 土も首下木も雨  
 うわくふ花 雨露乃めく足花  
 うを那う 五折やばちうぬ

情非情も 花のほろんなる  
 花なわて 花を祓ふあ花  
 花むなしく 花なきうふあ  
 花よりを花女族衣入うに  
 花乃り花うめなる花 花の  
 花う花ひも花 花や 花花  
 花木と花花はハ花あふみの



一、枝のむをささき清の色を  
霜雪の影ささき城の影ささき  
歌すや一花ひらりて四方に  
乃とさき定は月影をささき楊梅  
桃李数々の色ささき  
心ささき清は空おへたささき

下を

水と地り奇機ささき先月城字歌  
なわ陽と向ふ花木ささき  
あふささきやささき  
様々ささき目のおささき面白や歌  
ささきささき秋くは風の音ささき  
ささきの萩原先うささき  
歌とささきひささき方ハささき奇の



[illegible]

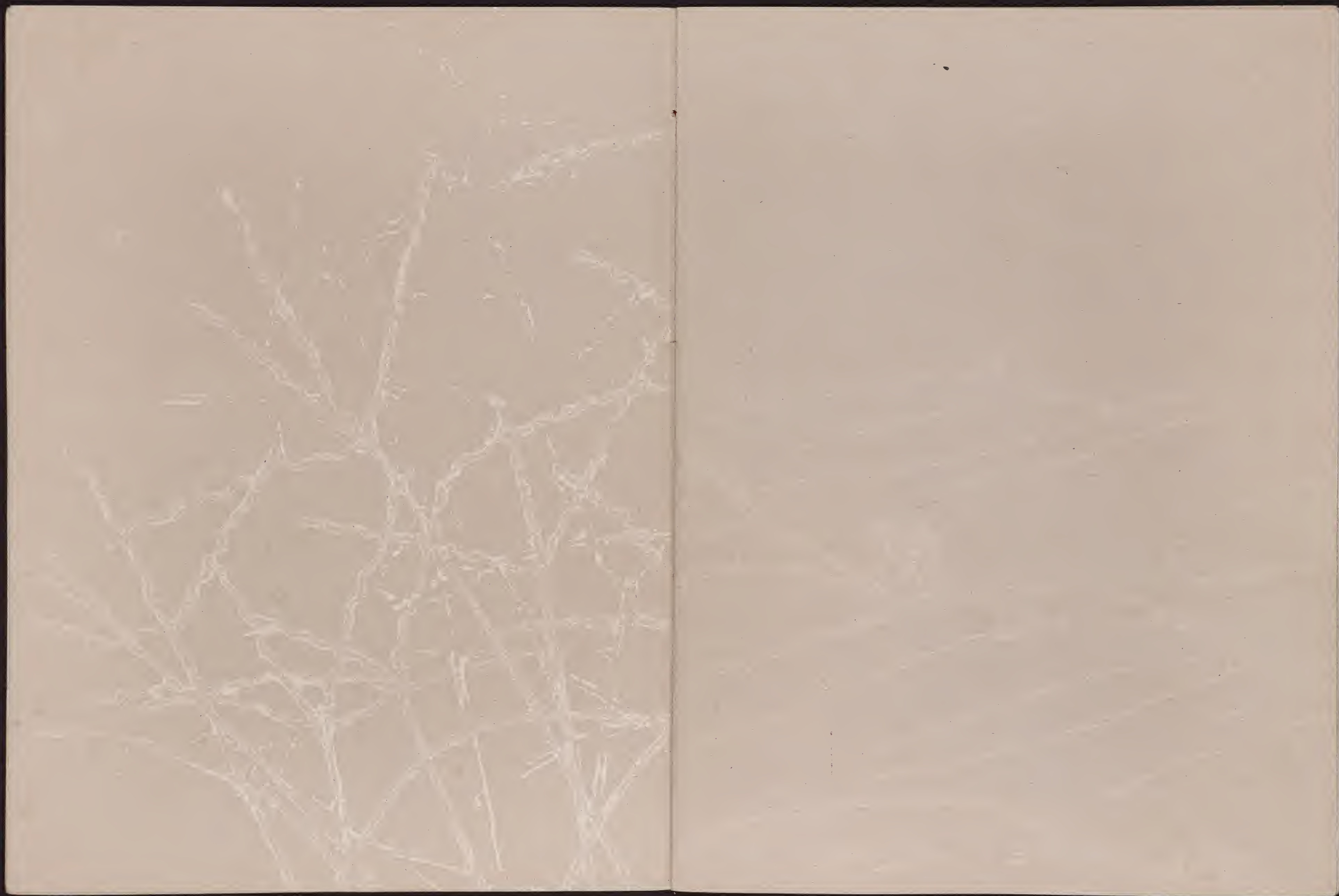
中に哉ー乃歸音をゆなり  
 木を祓きあむ想人きゝ祓思ひ  
 いさ乃やふハあまき大く月  
 ひとまもなひなむぬる秋思  
 風の音おきし志きま小篠原  
 志せし物思ひふく袖忘り  
 いそやうきせんい宵の月も



白ぬ乃  
 衣る海も霜乃  
 りし海志ものくそ露の思ふ  
 あうよはかきし  
 いさふと春ぐあふけし女子  
 羽ねなまじや  
 ふ袖をかきし  
 芭蕉乃阿ふ米の風えうく

物可く貴古もの恋乃あそちぬ  
 女良華るるや面影ふたふた  
 露乃万子や木萩松の風明  
 りひく集も千程も友に  
 りぬも地くそもちわく  
 なれハ花葉の被さる残さくわ









1914  
11月11日  
11月11日



